

## 今回の改訂における主な課題整理表

課題	現状	今後の方向性	施策の体系
スポーツ人口の拡大	<p>◆小中学生のスポーツの実施率や頻度が5年前と比較して減少しており、その背景には部活動やクラブ活動への参加の減少が考えられます。(P.14-15 参照)</p> <p>◆一方で小中学生の総合型地域スポーツクラブへの参画意向は一定数みられています。(P.16 参照)</p>	<p>▶学校活動のほか、地域や関係機関等と連携し、子どもたちが適切な環境のもとでスポーツに親しむことができる機会を拡大していくことが必要です。</p>	<p><b>基本目標 1：多様な主体が参画できるスポーツ機会の創出</b></p> <p><b>基本方針 1：生涯スポーツ活動ができる機会の創出</b></p> <p><b>方策①：子どものスポーツ機会の充実（継続）</b>          幼少期の頃からスポーツに親しみ、身体を動かす習慣を身につけることが、生涯を通じた健康や体力の保持・増進のための基礎となることから、学校におけるスポーツ・運動活動のほかに、子どもが身近な地域においてスポーツができる場の確保として、スポーツ協会・スポーツ少年団や地域の校区体育振興会、総合型地域スポーツクラブ等の地域スポーツ団体への継続的な支援を強化します。</p>
	<p>◆子育て・労働世代にあたる30歳代40歳代のスポーツ実施率が低い傾向があり、特に女性のスポーツ実施率が低い現状があります。(P.10 参照)</p> <p>◆スポーツをする習慣がない人が4割を占めており、市民の生活の中にスポーツが十分に取り入れられていません。(P.10 参照)</p>	<p>▶健康づくりやスポーツ実施に対する関心の高まりを維持する取組が必要です。</p> <p>▶性別や年代の特徴を踏まえてスポーツ実施率の全体的な底上げに向けた取組が必要です。</p>	<p><b>方策②：成人のスポーツ機会の確保</b></p> <p><b>方策③：高齢者がスポーツに親しむ機会の創出（分割）</b></p>
	<p>◆障害者スポーツに親しむ場所や障害者とのスポーツを通じた交流機会が少なく、障害者スポーツに対する市民の理解は十分とは言えない状況があります。(P.17 参照)</p>	<p>▶障害等の有無に関わらず、すべての人が共にスポーツに親しめる環境づくりが必要です。</p>	<p><b>方策④：障害者がスポーツに親しむ機会の創出（新規）</b>          市民が障害者スポーツへの関心と障害への理解を深めることが求められており、広報・啓発、障害者団体との連携などの活動を推進するとともに、研修会等の実施により障害者への理解促進に努めます。</p>
	<p>◆競技人口や指導者の減少により、競技スポーツへの参加者が減少しています。</p> <p>◆プロスポーツや国際大会に対する関心は高く、競技スポーツ観戦は普段スポーツを実施しない人でもスポーツに関心を持つきっかけになりうると考えられます。(P.12 参照)</p>	<p>▶競技スポーツや生涯スポーツを推進する団体へ継続的な支援が必要です。</p>	<p><b>方策⑤：競技スポーツの推進</b></p>
		<p>▶地域スポーツを推進する団体へ継続的な支援が必要です。</p>	<p><b>基本方針 2：地域におけるスポーツ活動の推進</b></p> <p><b>方策①：スポーツ教室やイベント等の開催</b></p> <p><b>方策②：地域スポーツの推進</b></p>
	<p>◆地域スポーツにおける指導者・後継者が不足し、団体の運営や指導者の確保が課題となっています。(P.17 参照)</p> <p>◆スポーツ指導者や支援活動を行う人材が減少する一方で、「出会いの場」や「スポーツの振興」というきっかけがあれば参加する可能性があるという回答している人が多く見られます。(P.13 参照)</p>	<p>▶スポーツボランティアの意義や魅力などを発信し、スポーツイベントや市民スポーツ活動を支える活動への参加を促す啓発が必要です。</p>	<p><b>方策③：指導者・ボランティアの育成（新規）</b>          地域住民が身近にスポーツ活動を親しむ場としての総合型地域スポーツクラブ等の運営を支える人材の発掘、育成に資する団体への活動支援を推進します。          また、スポーツイベントや市民スポーツ活動を支える活動への参加を促すため、スポーツボランティアの意義や魅力の発信による啓発を行います。</p>
	<p>◆トップアスリートやトップチームが地域を拠点に活動しています。</p>	<p>▶地域を拠点に活動しているトップアスリートやトップチームを市内外の人に知ってもらい、「みる」スポーツにも親しむ環境づくりが必要です。</p>	<p><b>方策④：トップアスリートに触れる機会の充実</b></p>

課題	現状	今後の方向性	施策の体系
スポーツによる地域の活性化と交流拡大	<p>◆国の第3期スポーツ基本計画においても、「スポーツが社会活性化等に寄与する価値」をさらに高めるべく施策を展開するとされており、スポーツが地域の発展にも大きな役割を果たす存在となっています。(P.2 参照)</p> <p>◆トヨカワシティマラソン大会などにおいて、スポーツを通じた地域間交流が進められています。(P.9 参照)</p>	<p>▶スポーツイベントの開催を生かしたまちづくりが必要です。</p>	<p><b>基本目標2：スポーツによる活気あるまちづくり</b></p> <p><b>基本方針1：スポーツ活動を通じた地域の活性化</b></p> <p><b>方策①：スポーツイベントによる交流人口拡大（継続）</b>            スポーツイベントは、交流人口を拡大させ、地域経済の活性化やまちの知名度を上げる効果も期待されます。豊川リレーマラソンやトヨカワシティマラソン大会といったマラソンイベントの開催にあたっては、楽しい魅力あるイベントづくりに努めることで、市外からも多くの方に参加いただき交流人口の拡大を図ります。</p>
	<p>◆市内外でのスポーツ団体や異業種間での交流は、あまり行われていない現状があります。(P.17 参照)</p> <p>◆スポーツツーリズムの実績が少ない状況です。</p> <p>◆市内外のスポーツ施設でイベントを観戦する市民が減少しています。(P.12 参照)</p>	<p>▶異分野の業種からのニーズを把握し、スポーツイベントなどにおけるコラボレーションを図ることが必要です。</p> <p>▶プロスポーツクラブ等と市民との交流の促進や、試合の情報などを効果的に発信し、観る・魅せるスポーツの推進に向けてスポーツを観戦する機会の拡大を図ることが必要です。</p> <p>▶市のスポーツ財産を生かし、新たな魅力を発掘し、市内外の住民に情報提供する取組が必要です。</p> <p>▶トップアスリートの活躍やプロスポーツクラブ等の指導を通して、スポーツに対する関心を高める取り組みが必要です。</p>	<p><b>方策②：プロスポーツクラブ・スポーツ団体や異分野との連携の推進</b></p> <p><b>方策③：スポーツツーリズムの推進</b></p> <p><b>方策④：スポーツ情報の発信</b></p>

課題	現状	今後の方向性	施策の体系
スポーツに親しめる環境の整備	<p>◆既存スポーツ施設においては、老朽化が著しい施設等の大規模改修を行っています。</p> <p>◆既存スポーツ施設は地域スポーツ活動の場として親しまれていますが、スポーツ人口の減少やコロナ禍の影響もあり、学校開放施設等の利用者は減少しています。(P.5 参照)</p> <p>◆障害者がスポーツに親しむ環境が充実していません。(P.17 参照)</p>	<p>▶市民がスポーツに親しむことができる環境づくりに努めることが必要です。</p> <p>▶SNSを活用した施設情報や利用方法などの情報発信を行い、施設利用者を増やすことが必要です。</p> <p>▶障害者や高齢者が利用しやすい環境に整備する必要があります。</p>	<p><b>基本目標3：スポーツ施設等の整備・充実</b></p> <p><b>基本方針1：スポーツ施設等の適正な環境整備</b></p> <p><b>方策①：スポーツ施設の工事・修繕</b></p> <p><b>方策②：学校開放施設の活用</b></p> <p><b>方策③：スポーツ施設のバリアフリーやユニバーサルデザインの推進</b></p>
	<p>◆パリオリンピックを通じてスケートボードなどのアーバンスポーツに注目が集まっています。また2026年に開催される愛知・名古屋アジア・アジアパラ競技大会に向けてさらなる注目の高まりが予想されます。</p>	<p>▶市民の既存スポーツ及び新規スポーツに対する関心やニーズを把握する必要があります。</p>	<p><b>基本方針2：スポーツ施設等の利用促進</b></p> <p><b>方策①：指定管理者制度の有効活用</b></p> <p><b>方策②：施設情報の発信</b></p>